

### ① 物資指定の粒度の考え方について、留意すべき事項

- ✓ サプライチェーンは川上から川下まで含むため、様々なところでボトルネックは発生し得ることから、様々な粒度をもって議論することで良い。
- ✓ 一律な粒度で指定することは難しく、物資に即して考えていかざるを得ない。今後柔軟に改訂できるよう、調査結果によってプライオリティをつけられるようにしておくことが大事。

### ② 安定供給確保取組方針の対象とすべき取組について、留意すべき事項

- ✓ 技術情報についてのセキュリティといった横断的な課題についても、物資指定の具体的なフレームの中に位置づけることができるように議論を進めていくことが必要。
- ✓ 物資によってここに至る経緯は異なると思うが、どのように体質を変えていくのか、どうしっかり支えていくのかを取組方針で見せていくことが重要。経済安保の取組だけで変えられるわけではない。
- ✓ 技術は日々進んでおり、供給途絶リスクのある物資の代替など、いろんなやり方があると思うので何ができるか考えておく必要。
- ✓ 必ずしも国内で生産・備蓄しなくても、他の国との関係を強化し、EPAなどを通じて確保する術も追及すべき。
- ✓ 支援を受けるためにどういった要件が課されるのか、取組方針で明示的に示し、企業が諸要件を理解した上で申請できるよう透明性を確保することが重要。
- ✓ 新しい工夫やイノベーションを妨げるものであってはいけない。業界の背中を押していくという位置づけが重要。
- ✓ 物資の指定だけでなく、全体の政策の中で、各業界・企業を強くしていくという方向性の中で位置付けていくことが重要。

### ③ 各候補物資について、留意すべき事項

- ✓ 各企業の取組と国の支援が合致していると支援が生きてくる。
- ✓ 今後の指定にあたっては、企業からその事業性等について相談できる窓口があると良いと思う。
- ✓ サプライチェーンの見直しは企業がまず行うべきで、企業の方向性と整合的であることが望ましい。柔軟な指定の組換えも必要。

## ④ サプライチェーンマップの記載内容・公表の在り方等について、留意すべき事項

- ✓ 一定の情報公開は重要だが、資料等の公表の在り方については慎重な判断が必要。
- ✓ サプライチェーン全体の地政学的リスクの見える化が重要。
- ✓ サプライチェーンリスクを考えるときは供給源だけでなく、アメリカのエンティティリストやサプライヤーの株主構成等といった観点も踏まえてリスクを調べる必要があり、時とともに変化していくため、継続的に調べる必要。
- ✓ どの国に依存しているかで分けて考える必要。また、予見性を高めることと、チョークポイントをさらすリスクを天秤にかけて、公開範囲を決める必要。
- ✓ 産業政策や外交政策等、他の様々な政策との関わりを考えて、個別の物資毎に政策のマッピングを今後やっていただけるとよい。

## ⑤ その他のご意見

- ✓ 経済安全保障という目標の達成には、企業の経営判断に依存することでは限界があるため、国が自ら調達するなど、一步踏み込んだ措置がどうしても必要になるのではないか。
- ✓ 各企業は、どの材料・部品が不足するかの検討を始めている。そういう企業にインタビューするとリスクが鮮明になるのではないか。
- ✓ 調査内容が悪用されることのないよう、情報管理については官民いずれも注意する必要。